



山仰台 春

校長 板宮成悦

先日、五十四歳の本校の卒業生の女性から手紙をいただきました。看護師として頑張ってきましたが介護の資格も取りたいので成績証明書を送って欲しいという内容でした。何歳になっても自分にとってよりよい生き方をめざすと言うことは素晴らしいことです。昨年、公務員試験に合格できなかった卒業生が頑張つて外務省の事務に合格しました。私にまで会いに来て報告してくれました。あきらめないで頑張つたから夢を達成できたんだと話したら泣いていました。苦しい時期があり、それを乗り越えたことを思い出したのだと思います。急に就職難の時代になりました。就職にあたって自分の希望ではない仕事を選ばなければならぬこともあります。会社でも、職種でも自分の第一希望通りに行かないことも



たくさんあると思います。希望通りの仕事に就くことはたいへん難しい時代です。しかし、この高校時代にまじめに取り組み頑張っていれば、将来、他の人が認めてくれて、責任のある仕事を任せてくれます。目標を持つこと、それに向かつて継続し

て頑張ること。昔から言われていることですが大切なことです。将来の自分を支えてくれるのです。そう話をしています。新年度がスタートしてからPTAのご支援をいただき学校のホームページを更新いたしました。東京の同窓会会長さんからは後輩達の活躍や母校の様子が分かり、楽しみに毎日見ているという話をいただきました。今年度はアクセス数六万台でスタートしましたがこの一年間で十万台になりました。学校の行事の様子や学校からの連絡、学校評価のアンケートの結果などが掲載されています。沢山の保護者の方に見ていただいて、沢山のアドバイスをいただきました。ありがとうございます。よろしくお願いします。

第三回 PTA役員会の報告

二月五日(木)午後六時から一関市千厩町のマリージュを会場として、役員と学校理事・事務局五十四名が出席して第三回PTA役員会が開催されました。片岡会長から「昨年秋季以降の厳しい経済状況の中でも三年生の就職内定がほぼ確定しているとのこと。このことは千厩高校卒業生の勤め先での評価が高いことと、学校側による進路開拓の大変な努力の成果であることを物語っております。心から感謝と敬意を表します。」と挨拶がありました。



生徒会長を終えて

前期生徒会長 小山 真由美

任期を終えた今でも、生徒会長だったということを考えると、その響きが自分に合わなくて苦笑してしまいます。生徒会長と言っても、特に成績が良かったわけではないし、意欲的に「学校をもっと良くしたい」と考えていたわけではありませんが、執行部の皆にとっても、頼りになる存在ではなかったと思います。私にできたことと言ったら、私らしく普通にしていることでした。「生徒会長らしく」を考えだしたらきりがなく、途中で投げ出していたかもしれません。なんだかやる気の無いように感じられそうですが、私は「現状維持ができたらいいな」と思っていました。先輩から引き継いだ頃は、重視しなければならぬ

抄がありました。板宮校長の挨拶で「今年度はPTAの協力を得てホームページを充実させました。県内でも評判がよく、年間三万人が見ており、首都圏の同窓生からも喜ばれています。」と紹介されました。会議は会長を議長に選出して進みました。事務局からの会務報告と会計中間決算報告があり、協議に入りました。「一、PTA事業の反省と新年度の事業」では各専門委員長から説明がありました。「二、平成二十一年度の役員選出」については事務局から方針の説明があり、引退する地区理事は後任の理事を選出し事務局に三

月末までに報告してもらおうことになりました。「三、その他」で教育振興会会計から新たに負担していただくことについて事務局から説明がありました。質疑が交わされた後、すべての案件について承認されました。(事務局長)



最後に、私が生徒会長という大役をやり遂げられたのは、やはり一番に周りの皆さんの支えがあったからだと思います。本当にありがとうございます。